原子力災害の影響

国際原子力事象評価尺度

異常事象・事故の深刻度

事故

異常事象

7 深刻な事故
（Major Accident）
・広範囲におよぶ健康と環境への影響を伴った放射性物質の深刻な放出（計画的な広域封鎖が必要）

6 重大な事故
（Serious Acceident）
・計画的な封鎖が必要となる相当量の放射性物質の放出

5 広範囲への影響を伴う事故
（Accident with wider consequences）
・計画的封鎖が必要な限られた量の放射性物質の放出

4 局地的な影響を伴う事故
（Accident with local consequences）
・地域の食品制限以外には計画的封鎖などを必要としない軽微な放射性物質の放出

3 重大な異常事象
（Serious incident）
・従事者が年間許容量の10倍を被ばく／放射線からの非致死の確定的影響

2 異常事象
（Incident）
・ 10 mSvを超える公衆の被ばく／放射線作業従事者の被ばく限度（1年間）超過

1 逸脱
（Anormaly）
・年間許容量の超過に伴う被ばく

0 尺度以下
（Deviation）
・安全上の問題がない

チェルノブイリ原発事故（1986）
（520京（5,200,000兆）ベクレル）

福島第一原発事故（2011）
（77京（770,000兆）ベクレル）※

キチュテム惨事（1957）

チョークリバー原子炉事故（1952）
ウィンズケール火災（1957）
スリーマイル島原発事故（1979）など

SL-1核反応炉事故（1961）
東海村JCO臨界事故（1999）
セラフィールド事故（1979）など

京ベクレル ＝ 10^{16} Bq

※：出典：原子力安全に関するIAEA閣僚会議に対する日本国政府の報告書（2011年6月）